



(長 浜)

高溝遺跡は天野川右岸の自然微高地に立地する。白鳳時代～平安時代の法勝寺跡の南側にあたる。圃場整備事業にともなう緊急発掘調査において、縄文時代前期～鎌倉時代までの、掘立柱建物や溝状遺構などからなる集落跡を検出した。木簡が出土した遺構は沼状遺構の第二層で、この沼状遺構からは、太刀・韃・櫓・鋤・鍬等の木製品が出土している。木簡の年代は、須

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
- 6 遺跡の年代 縄文時代～鎌倉時代
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 4 調査担当者 中川通士
- 3 発掘機関 近江町教育委員会
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)十一月～一九八八年七月
- 1 所在地 滋賀県坂田郡近江町高溝字大井

滋賀・高溝遺跡

たかみぞ

恵器の年代から八世紀中頃と推定される。

8 木簡の积文・内容

(1) 「咄呖啞」

(75)×23×3 0.19

木簡の形態は短冊形を呈し、ヒノキ板目材を用い、下半部は欠損している。墨痕はわずかに残るが、赤外線カメラにより判読した。符籙は確認できないが、呪符木簡である。

解説にあたっては、奈良国立文化財研究所の綾村宏氏のご教示を得た。

(中川通士)